

第2回会議の位置づけ

■各種作業と工程

		基礎調査 / 計画書作成	市民参加	会議での検討
令和4年度	8月	・資料収集 統計データ等、みどりに関連するデータを収集・整理	・調査手法の検討・調整 既往調査の把握・整理と、調査対象や手法の検討	
	9月	・緑被調査 航空写真の判読による緑被分布の確認 ・公園緑地現況調査 法令等で定められているみどりの量や分布の確認	・調査票の検討 アンケート調査票案の検討	
	10月	・現行計画の検証 庁内担当部署による施策の実施状況の確認・評価作業	・WEBアンケート ・小中学生アンケート アンケートの調査票の作成	計画の諮問 第1回審議会 ● 審議会の役割・概要、みどりの基本計画についての認識の共有 ● アンケート案の検討
	11月	〃	・アンケートの回収集計	
	12月	〃		第2回審議会 ● 現況の共有、課題の整理 ● 改定に向けた視点について
	1月	・その他調査 計画の目標数値 (KPI) に関する検討・データ作成等	・アンケート結果のとりまとめ	
	2月	・基礎調査のとりまとめ データや市民意向等をもとにしたみどりの課題整理と、基本計画の見直しの方針の作成		第3回審議会 ● 課題の整理 ● 見直しの方針の検討
	3月	〃		
令和5年度	4月	・計画の検討 目標、方針、施策などの検討		
	5月			第1回審議会 ● 目標、方針、施策の方向性の検討
	6月			
	7月			
	8月			第2回審議会 ● 施策の検討
	9月			
	10月			
	11月	・素案の作成		第3回審議会 ● パブリックコメント案の検討
	12月		・パブリックコメント	
	1月			
2月			第4回審議会 ● 素案の検討	
3月	・計画策定		計画の答申	

現行計画の目次

主に
第1回会議
の内容

主に
第2回会議
の内容

目次	
序章. みどりの基本計画とは	2
序-1. みどりの基本計画とは	2
序-2. 西東京市における取組み	2
序-3. 西東京市におけるみどりの基本計画の位置づけ	2
序-4. 西東京市みどりの基本計画の目標年次	4
序-5. 西東京市みどりの基本計画の見直しについて	4
第1章. 都市のみどりをめぐる近年の動向	6
第2章. 西東京市のみどりに関わる現況と課題	10
2-1. みどりの体系	10
2-2. 西東京市のみどりに関する現況	11
2-3. みどりに関わる課題	18
第3章. みどりの将来像	22
3-1. みどりの将来像	22
3-2. みどりのまちづくりの目標	23
3-3. みどりの将来都市構造	24
3-4. 数値目標	27
第4章. みどりのまちづくりの方針	30
4-1. みどりのまちづくり方針の体系	31
4-2. みどりのまちづくりの基本的考え方	33
4-3. みどりの機能からみたまちづくり方針	34
4-4. みどりのまちづくりの施策の方向	40
第5章. 地域別のみどりのまちづくり方針	46
5-1. 地域区分	46
5-2. 地域別のみどりのまちづくり方針	48
第6章. 緑化重点地区と緑化重点スポット	70
第7章. 計画の実現に向けて	76
参考資料. 計画策定の経緯	80
用語解説	82

みどりの課題

持続的なみどりのまちづくりのマネジメント

A みどりのコントロール

- ✓ 公有地/民有地の分け、守るみどり/創るみどり/整えるみどりの分けなど、みどりの性質に応じた対応
- ✓ みどりを活かしていくための環境づくり（多様なニーズに応えるための設備の工夫、活用機会の創出など）

B みどりを支える仕組みづくり

- ✓ みどりの価値の適切な評価、発信
- ✓ 自治体、地域・団体、企業等の共助によるみどりのまちづくり推進
- ✓ みどりのまちづくりに参加しやすい・支援されやすい仕組みの構築

A-1 みどりの量の確保

- 公共地のみどりを引き続き、整備・管理
- 民有地のみどりを減らさない&増やすための支援
- 有機的なみどりのネットワーク構築

現状

公有地のみどり

民有地のみどり

全市的なみどりの量の確保

- 公園の整備・再整備
- 街路樹・植栽の維持管理
- 生産緑地・特定生産緑地制度による保全
- 農業振興計画策定
- 保存樹木・樹林などの指定
- 文化財の指定

今の西東京市のステージはここまで

極地集中による効果的なみどりの量の確保

- 公園緑地の機能再編
- 有機的に多面的機能が発揮されるネットワーク構築
- 優先的に保全すべき民有地のみどりの設定
- 点在する都市農地の一体的な保全

発展

A-2 みどりの質の向上

- みどりの多面的機能の発揮
- 活用しやすいみどりの創出・誘導
- まちの魅力アップにつなげるみどりづくり・地域資源としての活用

現状

部分的な質の向上/循環型社会の構築

- 公園配置計画の策定による質の低下の抑制
- せん定枝・草・落ち葉の堆肥化

今の西東京市のステージはここまで

長期的・戦略的な展望下での取組推進

- 全市的なまちづくり戦略への、“みどりのまちづくり”の組み込み
- 観光・文化・農・福祉・環境エネルギーなど、分野を融合させながらのみどりのまちづくり推進による、みどりの多面的な機能発揮

発展

B-1 みどりのまちづくりを支える体制構築

- みどりの価値の評価分析と発信、啓発
- 既存の担い手の支援、新たな担い手の発掘
- 市民のみどりの保全・創出に対する行動量の誘発
- みどりを活用しやすい仕組みの構築
- 管理不足が今後懸念されるみどりへのアプローチ

現状

公有地のみどり

民有地のみどり

市内での人材の発掘・育成・活用

- 市民の主体的な活動実践
- 小規模公園の活用促進
- 協議会の発足（泉小わくわく公園）
- デジタル技術活用による新たな担い手の取り込み
- 学校教育・社会教育との連携（食育・歴史文化）
- 援農ボランティアの活用
- 緑のカーテンの市民モニター

今の西東京市のステージはここまで

市民の緑化技術の育成

担い手のすそ野の拡大

- みどりの価値の評価分析（排出抑制など新たな視点も）
- 活用とセットにした、利用者による管理や自主的な運営の仕組みづくり
- 支援したい人、支援されたい場所のマッチング（地域全体で共助で守るみどり）

発展

B-2 みどりのまちづくりを支える財源確保

- 民間活力の活用
- 多様な資金調達の方策の可能性の検討
- デジタル技術によるコスト低減

現状

制度設計や技術によるコスト低減

- 複数公園の包括指定管理者制度の導入（民間企業の参画促進）
- 開発指導による新たな小規模公園の発生の抑制（潜在コストの事前除去）
- デジタル技術活用による管理コストの抑制

今の西東京市のステージはここまで

包括指定管理者制度の拡大

新たな財源創出

- クラウドファンディングやネーミングライツ、グリーンボンドなど多様な資金調達の仕組みの活用検討

発展

第2回会議の論点

現状と社会潮流

① まちの概況

- ✓ 都心へのベッドタウンとして、人口と世帯数の増加が続いており、特に住宅の中でも戸建て住宅の増加が顕著。
- ✓ 概ね平坦な土地であるが、石神井川をはじめとした河川周辺での水害リスクが存在。

② 市のみどりの現況

- ✓ 緑被率は25.3%、みどり率は26.4%で、緑被は東大の田無演習林や都立公園、武蔵野大学周辺などで特に多い。前回調査(約20年前)より約4%低下しており、特に農地の減少が著しい。街路樹整備もあり、樹木・樹林は増加。
- ✓ 住民一人当たりの公園面積は1.88㎡/人(R4.4.1時点)で、市が管理する公園は約6割が300㎡未満の小さな公園。市内各地の公園でボランティアが活動中。供用開始から30年を経過した公園数は3割になり、老朽化が懸念。
- ✓ 本市は住宅などに隣接した都市農地が多く、キャベツやホウレンソウ、小松菜などが多く生産。しかし農地は減少傾向にあり、担い手も高齢化。

③ 市民意識

- ✓ まちのイメージとして「まちなかの自然(公園、農地等)が豊かである」という回答は全体の6割弱。子どもたちも市のみどりに対する意識は強い。
- ✓ さまざまなみどりの施策がある中で、防災やまちの魅力向上につながる施策が特に期待されている。
- ✓ 公園の活用に向けた多様なニーズがある。

④ これまでのみどりの取組

- ✓ 市では公園配置計画と連動しながら公園整備や開発公園の誘導、特別緑地保全地区や生産緑地・特定生産緑地といった都市計画制度の活用によるみどりの保全等に取り組んできた。
- ✓ 民有地における樹木の保全・生垣の設置等に協力的な市民がいるほか、地域の有志が企画・選定した西東京の木50選などの取組も存在。本市では小規模公園の活用アイデアワーキングなども開かれ、引き続き地域連携が期待される。
- ✓ 民間連携として複数公園を対象とした包括指定管理を導入。公園の管理活用における民間活力が活かされている。

⑤ 社会情勢

- ✓ SDGs への貢献など、多分野との連携による都市と自然が調和した持続的なまちづくりに向けた動きが加速化。
- ✓ 平成29年の都市公園法改正により、みどりにおけるプレイヤーが行政から民間へ移行しつつある。
- ✓ 都市農業振興基本法が成立し、農地の環境や防災への貢献力(多面的な機能)の発揮が期待されている。

みどりの課題

A みどりのコントロール

- ✓ 公有地/民有地の分け、守るみどり/創るみどり/整えるみどりの分けなど、みどりの性質に応じた対応
- ✓ みどりを活かしていくための環境づくり(多様なニーズに応えるための設備の工夫、活用機会の創出など)

A-1 みどりの量の確保

- 公有地のみどりを引き続き、整備・管理
- 民有地のみどりを減らさない&増やすための支援
- 有機的なみどりのネットワーク構築

A-2 みどりの質の向上

- みどりの多面的機能の発揮
- 活用しやすいみどりの創出・誘導
- まちの魅力アップにつなげるみどりづくり・地域資源としての活用

持続的なみどりのまちづくりのマネジメント

B みどりを支える仕組みづくり

- ✓ みどりの価値の適切な評価、発信
- ✓ 自治体、地域・団体、企業等の共助によるみどりのまちづくり推進
- ✓ みどりのまちづくりに参加しやすい・支援されやすい仕組みの構築

B-1 みどりのまちづくりを支える体制構築

- みどりの価値の評価分析と発信、啓発
- 既存の担い手の支援、新たな担い手の発掘
- 市民のみどりの保全・創出に対する行動量の誘発
- みどりを活用しやすい仕組みの構築
- 管理不足が今後懸念されるみどりへのアプローチ

B-2 みどりのまちづくりを支える財源確保

- 民間活力の活用
- 多様な資金調達の方策の可能性の検討
- デジタル技術によるコスト低減

次期計画の改定の視点

持続的なみどりのまちづくりのマネジメントに向けて 基本的な姿勢や取組の方向性を示していくのが基本計画の役割

★1 ビジョンをどう見据えるか?

みどりのまちづくりで何を指す? みどりに何を期待する?

→アンケート結果では、防災やまちの魅力向上など、景観や環境面だけでなく多面的機能の活用によるまちづくりに期待。加えて、本市では往年、健康まちづくりを推進&「ゼロカーボンシティ」宣言を発出=環境意識の高いまち
⇒例えば、みどりのまちづくりのコンセプトとして『人がみどりを守り、みどり
が人の暮らしを守り、互いに支え合うまち』など
…人がみどりを活用することで生活や心身が豊かになり、みどりが活性化することで、みどり支える人がさらに増える好循環の創出(みどりを通じた心身ともに健康的なまちづくり/人・自然双方にとって“生きる”上での基盤構築(グリーンインフラ))

★2 目標をどう位置付けていくか?

みどりの量の目標…行政の裁量や財政面を考慮した現実的な目標設定が重要
みどりの質の目標…みどりの質をどう定義するか?例えば『みどりの多面的な機能が発揮され、かつその環境が持続的に維持される状態』など
その他参考:Green Connection TOKYO が示す10個の目標

★3 西東京市らしいみどりとは?

地形・地質や河川といった自然条件に起因する旧田無市と旧保谷市のまちの成り立ちの違い。武蔵野の原風景、都心のベッドタウンでありながら都市農業と密接に関わってきた暮らし。住宅団地としてのまちの発展。
⇒地域ごとに異なるみどりの基盤とそれに合わせたみどりのまちづくりの方向性の検討(農風景のみどりの地域、開発団地による創出型みどりの地域など)

★4 具体的にどんなことに重点的に取り組んでいくか?

- 重点的に取り組むみどりの拠点やネットワークの位置づけにより、空間として有機的なみどりのまちを創出
- 公園整備による公園空白地区の解消や公共施設(学校など)の緑化など拠点性のあるみどりの確保、およびこれらの適切な管理、再整備
- 農地・樹林地等の面的に大きな量を占める民有地のみどりの保全、重点的な保全対象の明確化
- 地域を象徴するみどりの保全・創出・活用により、みどりを基盤にした個性的で魅力的なまちづくりを誘導
- 公園緑地などの身近なみどりの市民への関わりを増やしていく仕掛けの創出(必ずしも活用だけでなく、整備・管理へも関わりを生み出していくこと)
- 多様な人材が関わりを持ちやすくしていくための機会の創出、デジタル技術の活用など
- みどりの価値の見える化、学校教育・社会教育との連携による普及啓発 等